



高橋 宏明

社団法人東北経済連合会 会長

「国際リニアコライダー」を復興の象徴に

冬の澄んだ夜空に輝く星の光は、何万光年、そして遠くは132億光年という果てしない時空を超えて飛んでくる。宇宙はどこまで続いているのだろうか、宇宙はどのようにして生まれたのだろうか。天を仰ぎ、誰もが一度は思いを馳せたことがあると思う。

こんな何気なく通り過ぎてしまう疑問を、真剣に解明しようと情熱を注ぐ科学者達がいる。欧州合同原子核研究機関（CERN）は昨年7月、質量の起源で「神の粒子」とも呼ばれる素粒子「ヒッグス粒子」とみられる新粒子を発見したと発表した。1960年代にその存在が予言されてから約50年もの間、世界の科学者が追い求めてきたもの。宇宙誕生時には光速で飛んでいた様々な粒子がヒッグス粒子によって質量を持つようになり、星や生命が生まれる大きな契機になったと考えられている。

宇宙の起源を探るための研究はこれからがいよいよ本番だ。それは「国際リニアコライダー（ILC）」計画である。CERNの巨大加速器LHCがヒッグス粒子を発見するための研究施設だとすれば、ILCはさらに進みヒッグス粒子の詳しい特性を知るための施設だと言える。世界に1カ所だけ、地下100mに全長30kmから50km程度のトンネルを掘って建設する計画。堅い岩盤がある岩手県北上高地は、世界的にも有力な候補地とされている。宇宙誕生直後の高エネルギーの状態を再現し、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎に迫る。

また、ILCは素粒子物理の究明ばかりでなく、その応用範囲は、医療・生命科学から新機能の材料・部品の創出、さらには情報・通信、計量・計測、環境・エネルギー分野まで、非常に多岐にわたる。これらの分野で先端的な研究開発を促すことにもなる。昨年7月に東北 ILC推進協議会で取りまとめた「ILCを核とした東北の将来ビジョン」では、経済波及効果を約4兆3000億円、雇用創出効果を約25万人と推計した。東北に建設できれば、周辺に国際的な学術研究拠点が形成され、そこで生み出された研究成果と先端技術は東北から全国へ、さらに世界へと発信されることになるだろう。

東北が、日本や世界の科学技術をリードする、こんな夢が手に届くところまで近づいてきた。世界からもわが国への期待が高まっているなか、ILC建設の国内候補地は今年の夏にも選定される見通しである。東北全体でビジョンを共有しながら、東北一体となって誘致活動を進めたい。21世紀の科学を切り開き東北と世界をつなぐ ILCを、復興の象徴として実現したい。

（東北電力株式会社 取締役会長・たかはし ひろあき）